

に似つかわしくないまでに近代的である。ここ聖母像は、素朴さの中に、自然との厳しい生活を偲ばせるまさに象徴的なものであった。

山を下りて、首都のアンドラ・ベツリヤに入り、ブランド品の並ぶ免税店を横目にメリチエイ通りを通過、旧市街にある議会と裁判所を兼ねるカサ・デ・ラ・バルを見



山を下りて、首都のアンドラ・ベツリヤに入り、ブランド品の並ぶ免税店を横目にメリチエイ通りを通過、旧市街にある議会と裁判所を兼ねるカサ・デ・ラ・バルを見

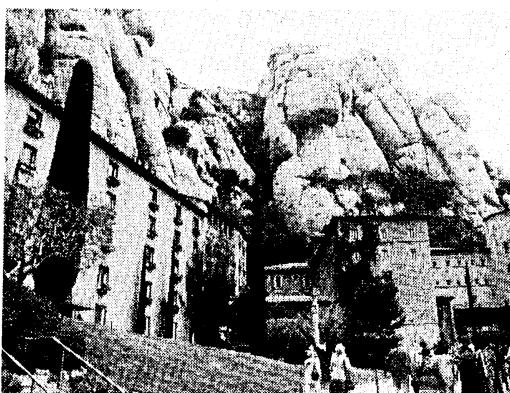
最後に立ち寄った町外れの大きなショッピング・センターで、神父様から教えて頂いた教皇様特集（五月十八日がお誕生日）の掲載された新聞を探したが同じ物を見つけることはできなかつた。これが唯一心残りであった。（そしてこの国の美しさに気を取られていた私は不覚にも足を捻挫骨折してしまいました。皆様にご心配をおかけし申し訳ありませんでした。）

（沖 和美）

モンセラート

スペインのカタルニア地方にあって、世界的にも知られている「黒いマリア像」。そしてヨーロッパでも最も古い歴史を持つ「少年聖歌隊」等々……。余りにも勉強不足のままアンドラを後にし、モンセラートへと向かった。息のむ程美しいピレネー山脈を、バスで数時間かけて抜けると、やがて車窓の正面に切り立った山々が現れた。太古の地殻変動によつてできたというキッカイに映る「岩塊」。神への信仰のシンボル「七つの鍵のついた戸棚」がある。

外に出てあたりを見渡せば、荒々しい風土の中に、十一、二世纪にかけて建てられた鐘楼やロマネスク様式の教会が、その美しい姿で心を和ませてくれる。



いドームの大聖堂に息をのんだ。立地条件の悪さなど考えも及ばぬほど素晴らしい。いざ「黒いマリア像」にご対面、長蛇の列の中を、一歩一歩時間をかけて聖母の玉座への階段を昇り、写真でしか知ることがなかつた聖母像の前に辿り着いた。目映いばかりの玉座の中央に座す聖母像は、木彫り独特の、暖かく、穏やかで簡素な、美しい像だつた。

私たちは、聖母像の真裏にある小さな聖堂でミサにあづかることができた。類い稀なる聖地。山々に囲まれ、静寂の中での祈り。生涯忘れることのできない感動的なミサとなつたのである。

つい先日、BS放送でこの聖地が空撮されたのを見ることができ、あらためてその場に居合わせることのできた時間を思い起こし、大きな幸せに浸ることができた。神に感謝。（川上由美）

（川上由美）

ヨゼフ会第二回「諸宗教との対話」講演会

日本人のこころ

神奈川県宗連盟理事長
鎌倉・鶴岡八幡宮宮司 吉田茂穂

私の家は元
来、山口県の神
主家でした。私
はいろいろのこ

りで鎌倉の鶴岡八幡宮にお世話をなつて約三十年経ち、神奈川県宗連盟の仕事に携るようになつて約四年になります。又、以前、神職になつ



て七、八年の頃、山手教会のクリスマスミサにも与らせていただき、一般の人も非常に多くおられた中で、厳かにミサの行われていたことに深い感銘を覚ええたことでした。

宗教連盟の人達とお付き合いをしていましたと、とてもあたたかみを感じますし、それぞれの宗教の目指すところは一つだなどつくづく、感じます。

神道といふものについて日本人もそうです、外国人の人達も知識が薄いか、誤解があつたりしますので、今日は神道の一片をお話したいと思います。

神道とは

昨年は世紀末、今年はミレニアム、来年は二十一世紀と、何か、世の中が明るくなつて来るような語感の響きがありますが、神道には、終末とか末法という思想はありません。この世は永遠に続くもので、人々は協力して一生懸命、働くことにより、良くなり、今、現在を一生懸命生き抜くことが大切だと考えます。

キリスト教や仏教とは異なり、創唱者が居るわけでもなく、教義や教典もなく、又、何時興つたかも判りません。従つて、日本神話を基点にしなければならないと考えます。

戦後教育では、神話は史実ではないとして排除されて来ました。しかし、神話は神が我々の祖先を導いた

歴史であり、我々の祖先が神を信じた生活の中から生まれたという、その事が大切であると思います。

キリスト教旧約の「創世記」は存在ということについて、絶対無のところに神が全てを創造していくと考えますが、日本神話は、そうした発想をせず、宇宙の初めに一つのものが存在し、これがやがて二つに分れて天と地になりますし、その天から神が現われ、イザナギ命、イザナミ命の二神が夫婦神となつて、八百万の神々を産み、我々の祖先を産み、日本の国土全てを、自然を産んだとします。神道の信仰はここからスタートします。

神道の自然観について

神道の自然観は、神も人も同じように自然に従い、包摂され、その自然の中に神の存在を見る一元的世界観です。と同時に神道の神は命の源泉であり、その神の命を継承して我々日本人があると信じます。即ち、神話と人の歴史が連繋と繋がつていて

死者の靈を死靈と呼び、穢れと考えます。遺された家族は、その死靈を祀ることによって、穢れが次第に取れ浄化され、一定年月、祭りを受けて完全浄化され、穢れ、悲しみを超えて清く、和やかな祖靈神となつて子孫を守り、幸せに導いて下さる。そしていつも我々は祖先に見守られないと考えます。

古代より山や森に囲まれて暮らす農耕民族であった日本人は、古くは神が建物に常住するという觀念はなく、神社が建つようになるのは少なからず、仏教の影響を受けていると考えられます。古代の神は山や森の力を絶やさない事が、人々の心の安

した。「……シロ」という言葉がありますが、これは仮りの場所を意味します。例えば、屋代—神が仮りに育てる場所、苗代—稻の苗を仮りに場所、依代—神が仮りに天降りて来られる場所といった具合です。

春になると山の神が人里に村人の幸せ、秋の収穫を見守る為、田の神となつてやつて来る来訪神を村人は丁重に迎え、四季折々の祭りを慎し

みの心、感謝の心をもつて嘗み、これを繰返して来ました。このような生き方をして来た優しい心根を持つ祖先に対する追慕、感謝の気持ちが大変強く日本人の生活に浸透するこ

とに至つたのでした。

死者の靈を死靈と呼び、穢れと考えます。遺された家族は、その死靈の祀ることによって人々は、慎まずのうちに罪を犯し、穢れを持つてしまいます。穢れとは、人間の魂の外部に起因し、外部からの付着物の付いた状態、内面的に気力が枯れた状態、又、心の有り様として慎み始めます。人は誰でも知らず知らぬ事と云います。これらを真剣に禊ぎをし、物忌みをし、お籠りをし、祓えをすることによって人々は、慎み深く、謙虚な心で神に対し、自然に対し感謝し、他者を思いやる心

になるのです。そのような状態になつた時、大らかで、優しく、慈悲深い神様の御心が感應して下さり、人々はより良き人間性を發揮でき、願いを叶えて下さると考えます。

お茶やお花は現在では、芸術文化の範疇にありますが、昔は信仰と深く関わつておりました。お茶の点て

こうして神道の信仰は自然崇拜と祖靈崇拜が根幹です。

神道の罪意識について

キリスト教では原罪の意識がありますが、日本人には古来、瞑想的な事実が大切であると思ひます。

神道では罪悪とはないでしょうか。神道では罪悪とはないでしょうか。神道では罪悪ではなく、病気や災害など不幸なことは全て罪悪、穢れと考えました。

神道の祭りは先ず、「祓え」から始めます。人は誰でも知らず知らぬ事と云います。これらを真剣に禊ぎをし、物忌みをし、お籠りをし、祓えをすることによって人々は、慎み深く、謙虚な心で神に対し、自然に対し感謝し、他者を思いやる心

になるのです。そのような状態になつた時、大らかで、優しく、慈悲深い神様の御心が感應して下さり、人々はより良き人間性を發揮でき、願いを叶えて下さると考えます。

*聖母被昇天野外ミサとバーティが八月十二日(土)に行われます。ミサは十七時三十分~十九時、バーティは十九時~二十時三十分です。野外ミサ用の献金、ご寄付、お手伝いにもご協力ください。

方、出し方、飲み方、お花の活け方、お客様のもてなし方と今では教養として学びますが、本来はお茶やお花を神様、仏様に如何にしてお供えするかということで、究極的には、如何に慎しみ深い態度をもつて神仏に接するかということだったわけです。

宗教間の対話について

近来、宗教間の対話について世界の潮流は、大きな流れとして対話を深めよう、理解し合おうという方向にあります。神奈川県宗教連盟では、昨年、イタリア・アッシジで世界平和の祈りを嘗みました。この時、本当に真剣な真実の祈りというものは、宗教や宗派や形式を超えて互いに共鳴し合うものだという事を身を以って実感しました。又、この正月

にフランスのストラスブールに参りまして、「感謝と平和の祈り」の祭典を奉仕して参りましたが、やはり神様、仏様に如何にしてお供えするかということ、究極的には、如何に慎しみ深い態度をもつて神仏に接するかということだったわけです。

同じでした。奉仕する者は勿論、そこに参加する人々が一つに心を協せて祈りを捧げることは、民族、国が違ひを越えて感動、共感を呼ぶものだと痛感致しました。

そんなことを思います時、最終的には人間が本来、持ち合わせている宗教性というか靈性というか人間性の深み(偽りのない心、まごころ)、そうした人間の奥深い根源的なものに行きつくべきで、そこは各宗教に共通するところであるが故に、個々の宗教の違いを必ず越えるものであると確信しております。

今後とも八幡宮への奉仕を通じて人々の精神生活に寄与して参りたいと思つております。

各会報告・おしらせ

○教会委員会報告

七月一日

*神奈川県大聖年司教ミサが八月十

三日(日)十五時~十七時に、山手教会で行われます。梅村司教様司式のこのミサには、県下四十八教会が参加します。

*六月十一日にバザー委員会が開かれました。今年の特賞は、十五万円の旅行券など、ラッフル券の商品が

決まりました。

*六月二十五日に山口道孝神父様に「東ティモールの支援活動について」講演していただきました。

十三日に予定しているオルガン・コンサートの収益も東ティモールの支援のために充てられます。その折に

死後が希望のキリスト者も、それ以外の人々も、死を特別視する所は同じである。著者はこの特別視を捨てる姿勢を出发点とし、ごく自然に人間の死を語つてゆく。これが私には新鮮であった。こちらも自然に導かれ、死に対する静かな受容を引き出され、読後は以外に爽やかだ。

死から新しいのちへ —看取る人の心得—

クレール・ケベール著

女子パウロ会刊

宗教書や闘病記と異なり、文学的、宗教的な快い感動は無い。

最善のホスピスを追求し、生

まれた看護法「ターミナルケア」の提唱、その理念と現場、

スタッフ育成等を述べた実践

の書である。

死後が希望のキリスト者

も、それ以外の人々も、死を

特別視する所は同じである。著者

はこの特別視を捨てる姿勢を出发

点とし、ごく自然に人間の死を語

つてゆく。これが私には新鮮であ

った。こちらも自然に導かれ、死

に対する静かな受容を引き出さ

れ、読後は以外に爽やかだ。



ターミナルケアは、末期患者となり、患者の心と体の苦痛を、入院期間の長期化と、投薬量増加による経済的負担は大きいと思

う。メンバー間の強調や、各

自分が患者に払う時間と体力、精神力も相当要求される。モ

デルケース実現は大変困難で

ある。メンバー間の強調や、各

自分が患者に払う時間と体力、精神力も相当要求される。モ

デルケース実現は大変困難で

ある。神様がついている。といつ

た有り難い励ましも、空虚に響いてしまう程に、苦しい看取りに直

面している方に一応紹介したい

本である。自身の臨終を見つめた

い方にも…。

(神谷りさ)

イトに、スイッチを取り付けました。

司祭信徒館 教会事務所の床、階段

の磨き、塗装作業を、七月二十七日

と八月三日に行う予定です。司祭信

徒館の外壁は既に撥水効果が少なく

なっていますので現在専門家に塗料

などの検討を依頼しています。

*ヨゼフ会では、八月二十六~二十

七日にバータ神父様にご指導をいた

だき、黙想会を行います。場所は箱

根強羅の白百合女子大の施設です。